

小都市人権・同和保育の取組が40周年を迎えました

問 保育所・幼稚園課保育支援係 ☎72-6666

市は、部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消に向けて、社会教育・学校教育・乳幼児教育とそれぞれの分野で学習や啓発活動に取り組んでいます。その中で1982年4月、筑後地区で初めて同和保育所として小都市立大崎保育所が開所。小都市人権・同和保育の取組が進み、今年で40周年を迎えました。

このことを記念して10月22日に小都市文化会館で、約500人の参加者のもと、人権・同和保育40周年記念事業実行委員会主催の記念式典が行われました。

式典では、同和保育所設立当時の保護者の思いに立ちかえり、就労保障と子どもたちの教育権の保障を目的とした0歳児保育、障がい児保育、長時間保育など、「一人ひとりを大切にする保育」の40年間のあゆみを検証し、これからの人権・同和保育の展望を確認しました。

また、子どもを知るにはその背景を知ることが大切であり、子どもたちの生活の場である、家庭、保育所、地域が一体となり子どもたちを育てる「24時間保育」の大切さについても再確認しました。今後も、人権・同和保育の一層の深まりと拡がりを求めて、取り組んでいきます。

オープニングイベント

市内の保育所(園)・幼稚園児(年長児)による歌「いのち」を歌う動画を放映しました。この歌は、小都市人権・同和保育30周年記念の取組の際に作成したオリジナルの人権ソングで、園児の日常のつばやきを集めて歌詞にし、歌にしたものです。園児の素直な気持ちが込められた歌でした。

また、大崎保育所の3～5歳の園児が人権ソング「大事なものはなんやろう」をステージで歌い、会場から大きな拍手が送られました。



◀ 市内の保育所(園)・幼稚園が作成した園の紹介パネルを展示しました

記念講演



反差別国際運動(IMADR)の共同代表理事、また世界人権宣言中央執行委員会副実行委員長の組坂繁之さんを講師に迎え、「大崎保育所 過去 現在 未来」と題して、記念講演が行われました。

組坂さん自身の実体験をもとに大崎保育所設立当時の思いや差別の実態、大崎保育所が果たしてきた役割と成果、今後の人権・同和保育の拡がりや深まりについて講話がありました。

「人権なくして平和なし、平和なくして人権なし」という組坂繁之さんのメッセージには、平和な未来を願う熱い思いが感じられました。子どもたちの将来を守るために、私たちが今できることを改めて考える貴重な講演となりました。